

「既設下水処理施設の改築における膜分離活性汚泥法適用化実証事業」について

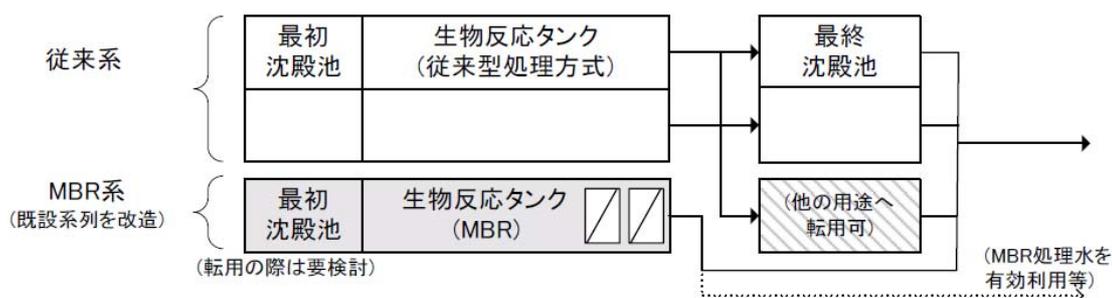
1. 事業の目的

膜分離活性汚泥法（MBR）の中大規模下水処理場の改築への適用性について、実際の下水処理場で実証し、今後の本格的な MBR 普及に向けて必要な知見やデータを集積することを目的とする。

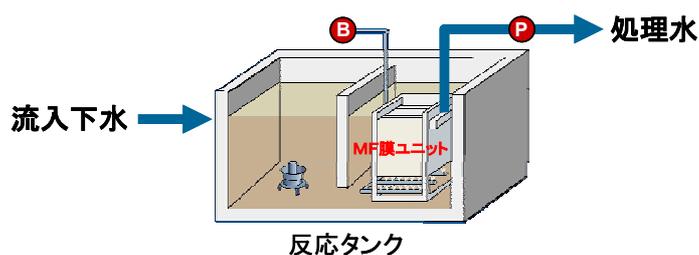
2. 事業の内容

既設の下水処理施設（反応タンク 1 池（3,000 m³/日～5,000 m³/日規模を想定））を用いて MBR システムを導入し、以下の事項について調査・検討の上、得られた知見やデータを報告書としてとりまとめる。

- (1) MBR システム導入に必要な施設（膜モジュール吊り上げ装置、洗浄用設備等）の配置上の留意点
- (2) 膜モジュールを設置する既設反応タンク等の構造的な検討事項・留意事項
- (3) 既設の送風設備その他既設の設備の活用可能性
- (4) MBR システムの最適運転条件
- (5) 流入下水の量的・質的変動に対する処理の安定性
- (6) MBR システムから発生する余剰汚泥等を、既設の汚泥処理施設で処理する際の留意事項
- (7) 改築、運転に係るコスト構造の把握及びコスト縮減方策の検討
- (8) その他必要な事項



既設の下水処理施設の MBR への改築のイメージ



MBR システム（浸漬型一体型）の例
（他に浸漬型（槽別置型）、槽外型がある）